

# 令和3年度 学校園評価シート

学校園名

加古川市立川西こども園

1 園教育・保育目標 「心豊かに、のびのびと素直に表現する子供」―遊びから学び、心と体を弾ませて―

2 園指導目標 (1)自分らしさを発揮し、素直に表現する子供 (2) 友達を大切にし、思いを共有して遊ぶ子供 (3) 最後まで粘り強く取り組む子供

<点検結果評定基準> A: 達成している B: まあまあ達成している C: あまり達成していない D: 達成していない

## I 経営の重点に関すること

重点目標	実践目標	評価項目	評価	○取り組み状況 ▲課題 ◎改善策
1 自分らしさを発揮し、素直に表現する子供	一人一人の特性や課題をとらえ、望ましい人間形成につながるよう努める。	園児の表情、しぐさ、言葉などから内面理解し、園児が達成感・満足感が得られる適切な言葉かけや対応、環境構成はできたか。	B	○おおむね各学年とも子どもの表情、しぐさ、言葉などを理解しようと努力し、気持ちに寄り添う言葉かけの大切さもよく理解しており、心掛けもしている。 ○教材研究に関しては、経験年数に関わらず、クラスの発達に合わせた方法でのアプローチを行い、インターネットなどを活用しながら研究している。 ▲実際に園児が満足感や達成感を得ているかまでの分析には課題がある。 ◎園児の満足感や達成感を読み取ったうえで意見交換を行い、環境づくりを心がけていきたい。
		園児がのびのびと発達に応じた方法で表現できるように教材研究をしたか。	B	
		園児の表現しようとする意欲や態度を記録し、次の活動に生かすことができたか。	B	
2 友達を大切にし思いを共有して遊ぶ子供	友達と心を通わせながら、人間尊重を基礎にした温かいふれあいのある生活を送る。	園児が安心感をもって登園し、身近な人と親しみを持てるような援助を心がけたか。	A	○友達を大切にするには、親子関係の安心・安定を土台に、自己肯定感を高めていくことを大事にしている。 ○未満児や特別に支援を要する園児には、笑顔でスキンシップを図り、少人数の関わりの中で、園児の思いを代弁し、「貸して」「順番ね」など、言葉の使い方を知らせ、友達関係の基礎を築ける働きかけをしている。 ▲人の心に触れたり、「人ものこと」から感じたりできる投げかけがタイミングよく行うことに課題がある。 ◎社会的スキルや、心をつなぐ言葉や意味を年齢に合った方法で伝えていき、友達と同じ空間で遊べるような環境づくりや、協力したり、考えあったりする姿をクラス全体に広め、温かいクラス運営を行う。
		保育教諭や友達と一緒にいることや、活動することの楽しさを感じられるような関わりはできたか。	B	
		園児の心の読み取りを意識しながら保育をし、園児と園児の心をつなぐ援助を心がけたか。	A	
3 最後まで粘り強く取り組む子供	自分で目標を決め最後まで諦めずに取り組める援助と環境構成を整える。	遊びの中で、工夫したり協力したりできる環境や保育教諭の援助を意図的に考えて教育・保育を提供できたか。	B	○発達に見合った目標であったか等、個人の興味・関心を記録にとりその都度、環境構成を考え、ありのままの園児の姿をとらえながら、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と照らし合わせて保育を振り返っている。 ○簡単に答えを出さず、方法や、ヒントを出しながら園児の「やってみる」と意欲が高め、粘り強く取り組める言葉掛けや環境を整えている。 ▲園児とじっくりと関われる時間を大切にし、様々な保育を見守ったり、支えたりする時間を確保する。 ◎園児が具体的なイメージがもち、こうしたい、こうなりたいという気持ちを支え、成功体験を経験できるように視覚的な環境を整える。
		一人一人の興味や発達を考慮した遊びを提供するための教材研究を心がけたか。	B	
		最後まで諦めずに取り組む意欲や態度をはぐむための援助と環境構成を整えることができたか。	B	

## II 施設の機能に関わること

分野	項目	評価	○取り組み状況 ◎改善策
教育及び保育の全体的な計画に関すること	園児理解とその対応	A	○職員が行事や遊び、学年ではどのような姿が育ってほしいのかを明確にできるよう、10の姿の掲示や配付プリントにも掲載し、遊びからの学びが具体的な保育の一場面から分かるようにしている。2歳児未満には、10の姿の中の健康な心と体、自立心、豊かな感性の3つの姿に焦点を当てて保育を振り返るようにしている。 ◎写真については引き続き10の姿を意識しながら撮り、先生たちが何を意識して保育をしているのか尋ねたり、確認したりするフォトカンファレンスの機会をもつようにしたい。
家庭との連携・協力に関すること	保護者との相互理解・対応等	B	○「キラキラニュース」「ふれあい通信」「行事の見どころ」個人懇談、ドキュメンテーション等、保護者にも園児の普段の姿や育っている力、また、このようなことを経験させたいという保育教諭の思い、家庭で取り組んでいただきたい内容などを掲載している。 ◎登降園管理システムを利用し、保護者との連携を図る。
地域との連携に関すること	地域・自然等の関わり	B	○中止や延期になったりすることが多かったが、畑での栽培に関して、定期的に地域の方との交流ができた。 ◎心にゆとりをもち、飼育動物や栽培物等に対して発達に沿って「命」と向き合う機会を大切にしていく。
小学校との連携に関すること	小学校との円滑な接続	B	○ユニット活動を通して、学校園の取り組みについて情報交換をし、特に就学児については引継ぎを含めた情報を伝える。 ◎園での活動の内容を小学校の先生に見てもらったり、小学校の様子を見学したりしながら、教育や保育の内容について考える機会をもちたい。
安全対策に関すること	事故・災害・感染症対策	B	○事件事故に対してタイムリーに訓練を行い、考えたり、共通理解したりする機会をもつことができた。また、役割を周知実践して改善点を見出し次回に生かしている。 ◎実現的な避難訓練をしていくように行政や地域に相談していく。 ◎感染症対策について、個人情報保護の観点から、必要な情報のみを提供し、より人権的な配慮を行う。

## III 関係者評価

I 経営の重点に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット（キッズリー）等の活用で園と家庭が連携をし、園児にとって安全安心に過ごさせていることを評価する。コロナ禍での小学校との連携は難しいが、小学校への接続を考えると、感染対策をしながら、これからも進めていってほしい。</li> <li>・園から届くプリントなどで園児の姿を知ることができた。今まで通りにできない行事を、工夫をしながら取り組まれている先生たちの努力が何え、その時期に育てなければならない力を育まれていることを理解できた。</li> </ul>	A
II 施設の機能に関すること		